

天からの7つの宣言(2)〔要約〕

ヨハネの黙示録14:9~20

- 9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。
「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、
- 10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。
また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。
- 11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。
獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。
- 12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」
- 13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。
彼らの行いは彼らについて行くからである。」
- 14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。
頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。
- 15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。
「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」
- 16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。
- 17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。
- 18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。
ぶどうはすでに熟しているのだから。」
- 19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。
- 20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、
千六百スタディオンに広がった。

黙示録 10 章~14 章は挿入句：先々週の復習

黙示録 13:13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。
黙示録 13:14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、
剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。
偽預言者が反キリストの像を作るように命令した。

黙示録 13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、
また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。
像がものをいうようになる。まるで生きていたかのように話す。偽預言者が息を吹き込む。反キリストの像を拝まない人を殺す。Youtubeで「エルサレム、第3神殿」を見る。

黙示録 13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、
奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。
「刻印」=「右の手か額に刻印を押される。」・・・反キリストの刻印を押されると反キリストのものになる。

黙示録 13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、
だれも、買うことも、売ることもできないようにした。
経済活動をするための刻印。その刻印がないと、物を売ることも買うこともできない。
第2次世界大戦の時、ナチスドイツはドイツ人にドイツのマークを与えた。
ユダヤ人はそのマークがないので、仕事に就くことが出来なかった。

黙示録 13:18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は
人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。
「666」は、ヘブル語のアルファベットのある記号を表します。第2次世界大戦の時に、ナチスドイツがド
イツ人に与えたマークのようなものです。そして「666」の刻印を押されなければ、売ることも買うことも
できないのです。これは餓死するしかありません。大患難時代に落とされると反キリストの像を拝まな
ければ殺されます、また「666」の刻印を押してもらわなければ餓死します。

(A) 獣を拝む者たち
黙示録 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。
「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、
黙示録 14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。
また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。
黙示録 14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、
まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

反キリストの像を拝まなければ、偽預言者から殺されます、そして「666」の刻印を受けなければ餓死するしかありません。しかし反キリストの像を拝み、「666」の刻印を押されれば、殺されることはないが、神様から火と硫黄池に投げ込まれ、永遠に苦しみを受ける。

黙示録 20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。この苦しみは永遠に続きます。反キリストの像を拝まなくて殺されるのが怖いのか、「666」の刻印を受けなくて餓死するのが怖いのか、神様から永遠の火に投げ込まれるのが怖いのか、どれかを選ばなければなりません。イエス・キリストを信じていない人はどちらかを選ばなければなりません。

ルカ 12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

箴言 1:7 主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

Ⅱテサロニケ 2:8 その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

Ⅱテサロニケ 2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

Ⅱテサロニケ 2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

Ⅱテサロニケ 2:11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。

Ⅱテサロニケ 2:12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

(B) 聖徒たちの祝福

黙示録 14:12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

黙示録 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解放されて休むことができる。

彼らの行ないは彼らについて行くからである。」

「天からの声」＝「神様からの声」 「しかり」＝「その通りです。」

反キリストの像を拝まないもの、「666」の刻印を受けない人は、永遠に祝福されます。

(B) 刈り取り

黙示録 14:14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。

頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。

「人の子」＝「キリスト」・・霊的収穫を集める

黙示録 14:15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」刈り入れる時が来たので刈り取ってください。大患難時代の中で殉教して刈り取られるのもいいですが、今刈り取られる方がもっといいです。

(C) 神の激しい怒り

黙示録 14:17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。

「鋭い鎌を持っていた」＝「罪びとたちの刈り取り」

黙示録 14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

黙示録 14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

「酒船」＝「神の怒り」 エルサレムの東：オリーブ山、ケデロンの谷：大量の血が流れる。

「馬のくつわ」＝「1メートル」

「1600スタディオン」＝「1600×185＝296000」＝「約300キロ（東京～豊橋）」

結論

マタイ 25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰には入り、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。」今イエス・キリストを信じれば永遠の命に入れられる。今イエス・キリストを拒否した人は永遠の刑罰に入る。クリスチャンはそのことを知っています。クリスチャンが今福音を語ってもノンクリスチャンは馬鹿にして信じてくれません。何か作戦はないでしょうか。

第2次世界大戦のときアメリカで、ドイツを降伏させる作戦を持っている人はいなかったのです。ルーズベルト大統領は、ドイツをたたく作戦を考えていましたが、アメリカの上層部にはドイツをたたく作戦を持っていない人は一人もいなかったのです。ルーズベルトは、アメリカの司令官の中にドイツをたたく作戦を持っている人を探していました、上層部には一人もいなかったのです。下層部の人でドイツをたたく作戦を持っている人はいるかと、下層部の人にも聞いて回ったのです。すると、アイゼンハワーという人がドイツをたたく作戦を持っていたのです。それがあの有名なノルマンディ上陸作戦です。誰もノルマンディから上陸することは考えていなかったのです。ドイツもまさかノルマンディから上陸してくるとは考えていなかったのです。ドイツの意表を突いたのです。ノルマンディ上陸作戦は成功して、アメリカがドイツを破ったのです。

私がなぜノルマンディ上陸作戦の話をしているのか、聖霊様から知恵をいただいて、ノンクリスチャンに福音を届ける方法が必ずあると信じているのです。聖霊はあなたがたにすべてのことを教えてくださります。祈りましょう。